

おばまじょうあと 24. 小浜城跡

所在地：小浜市城内1丁目

調査原因：一般国道162号道路改良事業

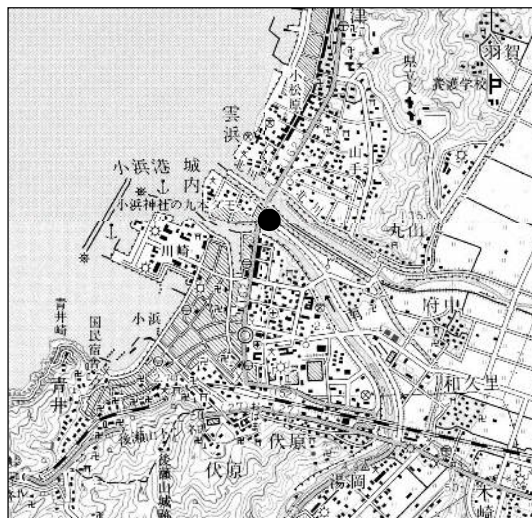
調査期間：令和元年6月3日～11月29日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：I区 263 m²

II区 192 m²

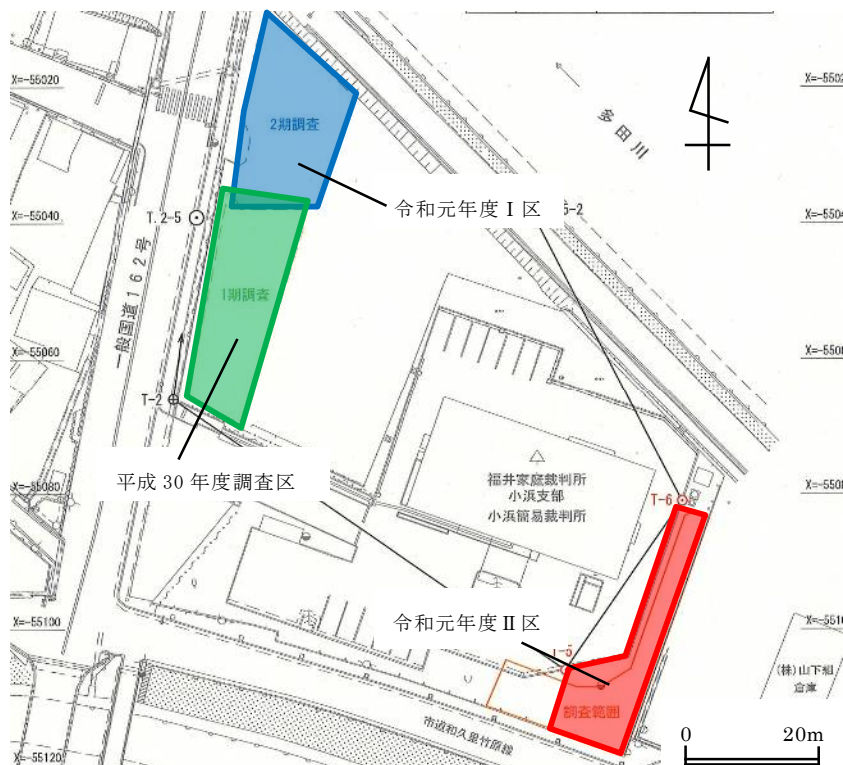
時代：江戸時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 小浜城は、北川・多田川と南川の河口に挟まれた三角洲に築かれた江戸時代の城です。慶長5年(1600)の関ヶ原の合戦後、小浜藩初代藩主である京極高次によって、後瀬山(のちせやま)城から雲浜(うんぴん)の地に、拠点に移され築城を開始しました。小浜城は京極氏の時代には完成しませんでした。京極氏の後に小浜藩主となった酒井忠勝によって完成しました。明治維新まで酒井氏によって修理・維持されてきましたが、明治初期に、火事や天守の解体などにより小浜城の大部分は失われました。現在は本丸跡に酒井忠勝を祀る小浜神社が建っています。

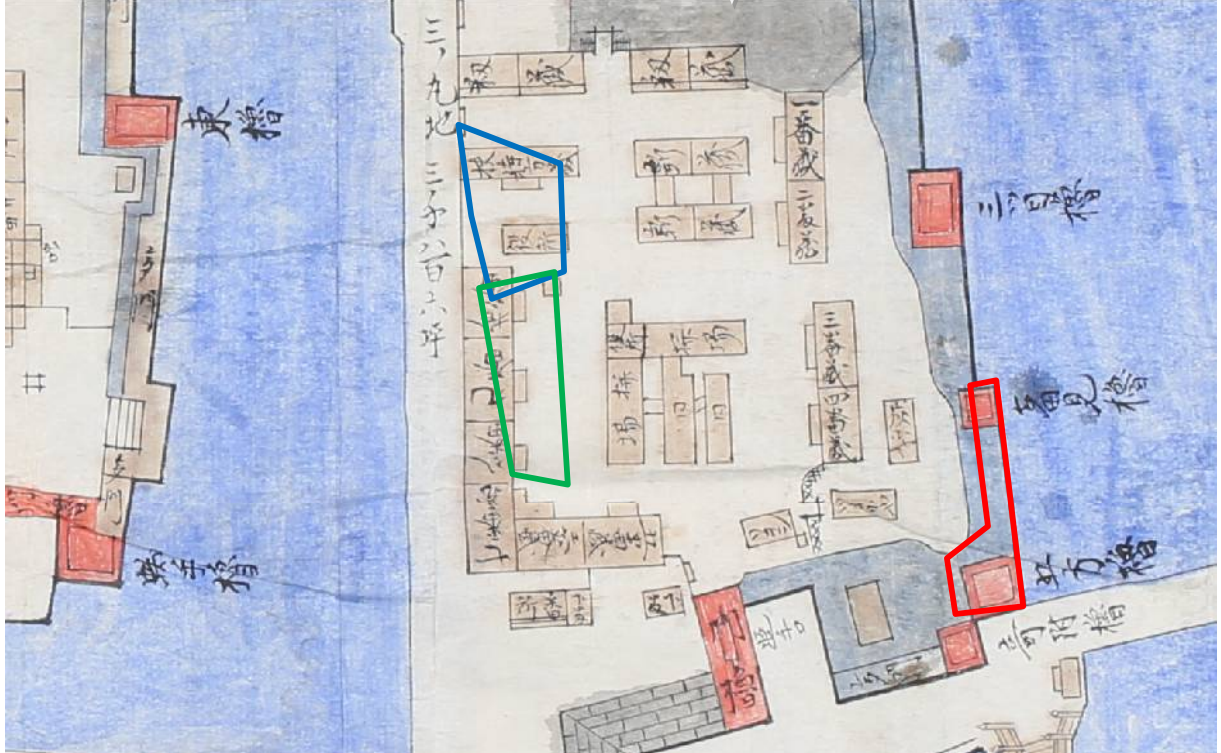
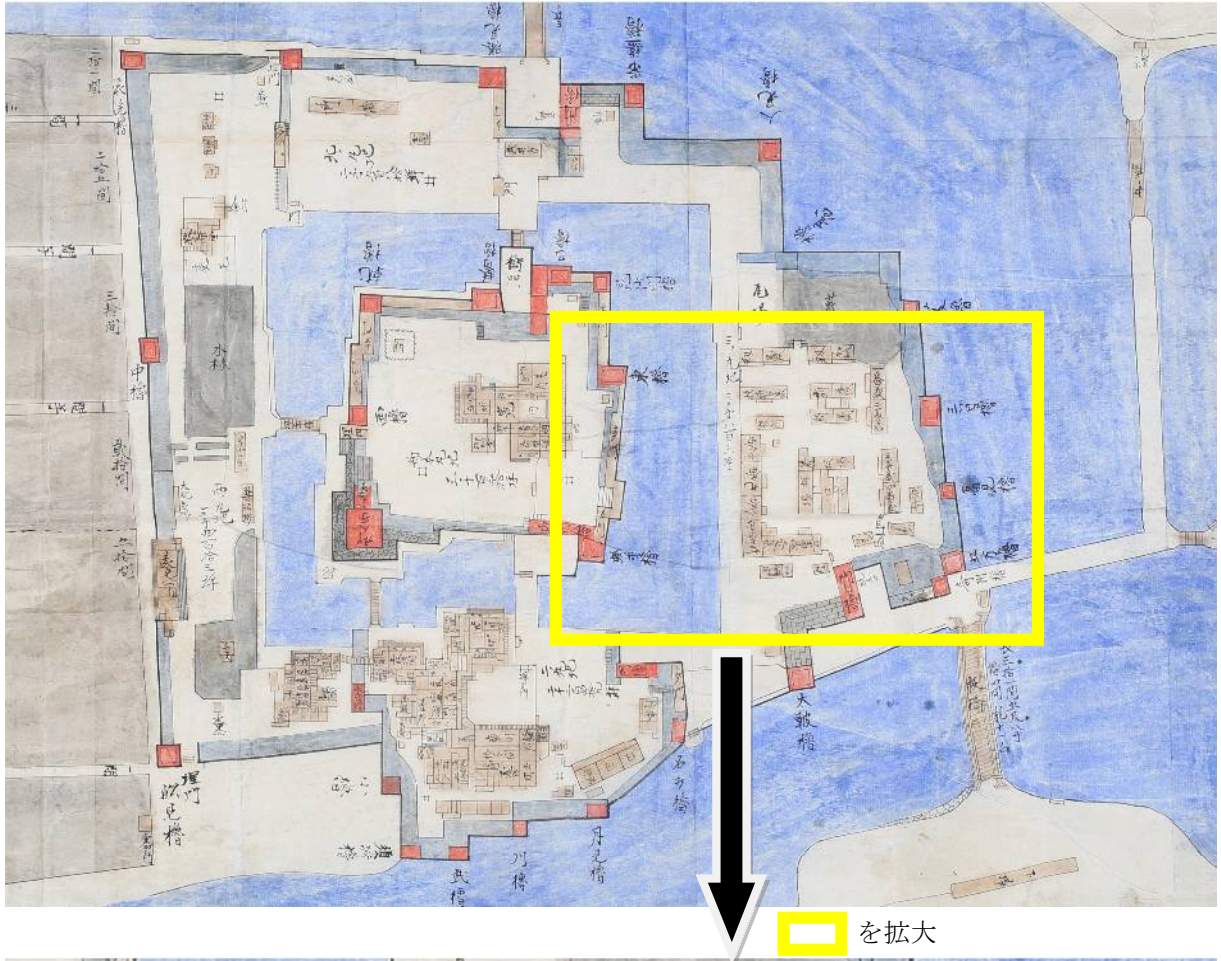
この度、国道162号改良工事に伴い記録保存を目的とした発掘調査を行いました。これに



調査区位置図 (縮尺約 1/1,100)

伴う発掘調査は平成30年度より開始しており、今年度は2年目にあたります。江戸時代後期の小浜城絵図によると、調査箇所は三ノ丸に該当し、米蔵や粃蔵および関連する役所が描かれています。平成30年度の調査では、3棟分の蔵の基礎部分石垣と各蔵の出入口となる石段を確認しました。

今年度の調査対象地は2ヶ所に分かれており地区ごとに分けて説明する。以下I区(雲浜保育所跡地)、II区(裁判所内)と呼称します。



※ 調査範囲は調査区位置図と対応させている。

小浜城絵図（部分） 福井県立若狭歴史博物館所蔵

遺構

I 区（雲浜保育所跡地） 平成 30 年度に発掘調査を行った地点の北側にあたります。調査の結果、石垣や石列、溝などを確認しました。調査区の南側では平成 30 年度に検出した石垣の続きを検出しました。石垣の出隅部分を検出できたことから、絵図にある「拾番蔵」に伴う石垣であることが確定しました。調査区の北側では蔵そのものの痕跡は確認できませんでしたが、絵図にある「扶持方蔵」の石垣と石列を確認しました。

加えて、絵図には載っていない石垣と石垣の出入口となる石段を確認しました。「扶持方蔵」の下層からも石列（土塀の基礎？）を確認しました。これらの遺構は「拾番蔵」や「扶持方蔵」の造営に伴って破壊されており、基礎部分しか残っていませんでした。このことから、江戸時代の小浜城では前時代の石垣や塀などの破壊を行うような大規模な改修工事が行われていたことが明らかになりました。確証はありませんが、京極氏から酒井氏へと藩主が入れ替わる際に大規模な改修工事が行われた可能性があります。

II 区（裁判所内） 絵図によると、調査箇所は三ノ丸の外縁の石垣が存在した地点に該当します。内側は「土手」などと表記されることから石垣は存在しなかったものと考えています。調査の結果、石垣と石垣の基礎を確認しました。調査区の北端では石垣を検出しました。下部の確認のために可能な限り掘り下げてみましたが、まだ下方へと続いていることから、この石垣は外堀に面する石垣であることが判明しました。石垣の東側では石積み（水路）を確認しましたが、近代から現代にかけて積まれたものです。調査区南側では石垣根石を確認しました。石垣自体はすでに削平されて残っていませんでした。この根石は絵図にある「五方櫓」に伴う石垣の根石の可能性があります。

遺物 出土遺物は瓦（いぶし瓦、赤瓦）、陶磁器などがありますが、ほとんどは瓦です。中でもいぶし瓦が最も多く、これは小浜城の近くで焼かれたものです。赤瓦は文献記録から、敦賀市舞崎付近で焼かれたものが運ばれてきたと考えられています。

まとめ I 区では、小浜城の石垣が改修されていたことが明らかとなり、三ノ丸の変遷を示すことができました。II 区では、三ノ丸外堀の石垣を確認でき、小浜城の外郭が明らかになりました。

小浜城は現在残っているのは本丸跡のみですが、地下には遺構が比較的良好に残されていることが予想されます。発掘調査は引き続き来年度も行う予定です。今後の発掘調査を通して、小浜城の姿がさらに明らかになっていくことでしょう。 (中島啓太)



小浜城跡出土いぶし瓦（左）赤瓦（右）



小浜城跡遠景（北東より）



I区全景（南東より）



II区石垣検出（北より）



I区拾番蔵石垣検出（北東より）



II区石垣根石検出（南東より）